

社協だより

第166号

2015.6.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145
TEL 0949 (23) 2551 FAX 0949 (23) 2552
e-mail: nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp HP: <http://www.nogatahakyo.org/>

未来の夢に向かって



平成27年4月6日に行われた
直方特別支援学校の開校式で新しい
校旗を披露する幼児児童生徒の代表

もくじ

- 家族会が支えた精神障害者の歩み 2
- 地域の子
情報の広場
図書室 3
- お知らせ
ご寄付 4

kantera

カンテラ



「共生社会の実現」 という未来へ

直方聾学校と直方養護学校は、平成27年度から統合され、聴覚・知的・肢体不自由の障害児教育を行う直方特別支援学校として、新たに開校しました。

開校式では、皆の思いがこもった校旗や校歌が、幼児児童生徒の代表や先生たちによって披露されました。

後日校長先生から、開校式までの経過やこれからの学校教育への熱い思いもお聞きしました。

授業の様子では、個別指導や個性にあった言動を認め合う中から、規範も身に付けて欲しいとの思いがあると感じました。

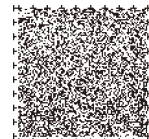
幼児児童生徒たちは障害に違いがあっても、学校という社会でお互いを「認め合い」「仲良く」「力を合わせ」学びあっています。

学校は幼児児童生徒たちにとって人生の過程であると思っています。

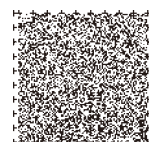
卒業後は、一人ひとりの思いが実り、地域で暮らしていく会を作っていくことが大切だと感じました。

(田中)





家族会が支えた精神障害者の歩み



なおみの会は、直方・鞍手地域を範囲とする精神障害者家族会の名称で「障害があっても尚、美しく生きる」という意味で「尚美」と名づけられました。

なおみの会の方に、支援が乏しかった時代から家族会が支えた精神障害者の歩みについて話を伺いました。

家族会が支えた精神障害者の歴史

昭和62年頃、精神障害者（以下、当事者）は病院や施設に入っていなければならぬという認識から、地域で生活していくことができる人であるという認識に変わっていく中、平成4年11月に直方鞍手地域精神障害者家族会（以下、なおみの会）が発足し、直方保健所で週に一度だけ行われていた、デイケアの他の日の受け皿として、なおみの会共同作業所（以下、共同作業所）の開設に向けて動きだしました。

その当時の家族は「こちらからお金を出してもいいから共同作業所を作りた」という気持ちでした。

共同作業所の開設当初は、当事者と家族が一緒に通い、なおみの会前会長や家族が日替わりで支援員となり、ろうそくの検品や手工芸などを行っていました。

共同作業所が、平成17年までこの地域で唯一の月中活動の場として存在し続けることができたのは、家族の手弁当によるボランティア精神に支えられたものでした。

共同作業所の移転、新設には反対の声も

なおみの会が共同作業所を移転、新設する際には「当事者がうろうろしてもらうては困る」「なんかあつたら追い出すことが条件」など反対の声もありましたが、行政機関の働きかけや今日まで相手への感謝の心を大切に活動した結果、今では地域に根付いた作業所として、皆様にも理解していただいています。

当事者をなおみの会が支える

意味とは

平成18年4月、障害者自立支援法によ

る規制緩和で有限会社や株式会社などが参入してきたことで、当事者本人が働く環境を選べる程になりました。

適性や能力に応じて他の事業所に移ることや一般就労をすることは良いことだと思います。

しかし、当事者は精神疾患を抱えていることで、安定した生活ができにくい状況があります。

そのため、他の事業所では受け入れることのできない当事者を「温かく迎え、受け入れる存在」「いつでも帰ってくる」とができる存在」として、さらには、閉じこもっている多くの当事者が社会参加・社会活動する入口や、次のステップへつなぐ通過点として、なおみの会には大きな存在意義があります。

これからのなおみの会の役割は

なおみの会がこれまで継続してこれたのは、私たちだけの力ではなく、地域の方たちに支えられてきたからです。

しかし、親亡き後や自立のためのグループホーム、アパート生活などを考えると、今まで以上に地域の方に理解していただく手立てをなおみの会が作っていく必要があると感じています。

取材をとおして

立山会長や皆さんの言葉から、なおみの会は、家族同士のつながりや精神保健福祉の立場で住みよいまちづくりに寄与することを、目指していることが分かりました。家族に当事者を抱える重苦しさを想像していましたが「死ぬことも考えた」を乗り越えた皆さんのたくましさや明るさに圧倒されるばかりでした。

当事者の自立には収入と同時に、周りに暮らす私たちの病気や障害に対する理解が不可欠であることも教えられました。障害を持つ人と私たちとの共通点は、共に人間として尊い命をいただいていることです。

個性を認めることで相手を尊重し、支え合って共に命を全うしたいものです。

（石黒）



会長の立山氏（左）
副会長の國房氏（右）



役員の山本氏（左）
元役員の村岡氏（右）

地域の輪

地域に根ざした独自の
福祉活動をご紹介します。

「同じ悩みに支えられて」

学校に行かない子どもを支える会



学校に行かない
不登校(病
気や経済
的理由を
除く年間
30日以上
欠席)の
小中学生
は、文部
科学省の
不登校の支援を直方市内
で約20年前より続けている、
学校に行かない子どもを支
える会(以下、支える会)の
栗原さんにお話を伺いまし
た。

栗原さんご自身も子ども
が不登校だった時期は、支え
る会に助けられました。
今悩まれている方に私たち
の経験が少しでもお力添えに
なればと思い、相談もできる
定例会を第2水曜日の10時
から12時に直方市総合福祉
センターで開催しています。
さらに昨年度は、直方市
社会福祉協議会との共催に
より、不登校・ひきこもり
をテーマとした地域福祉セミ
ナーを3回にわたり開催し
ました。

参加者アンケートからは
「家族(大人)だけではどう
しても同じ見方や接し方しか
できていない、狭い世界だと
気づきました」「頭では分かっ
ていても、他の人の言葉とし
て改めて聞くと、心まで響き、
子どもとの会話を少し変えて
いきたいです」といった意見
もあり、7月には同じ立場で
情報交換できる機会を計画し
ています。

(藤田)



点字講習会(入門編)
受講者募集

■日時

7月23日から9月17日
までの、毎週木曜日
(8月13日は除く)
10時から12時まで
※全てに参加できなくても
受講できます。

■会場

直方市総合福祉センター
(直方市大字山部616・145)

■内容

点字の基礎から、点字を打
つ、点字の文章を訳すまで
を学習します。

■参加費

テキスト代として300円

■募集人員

20人

■主催

点訳サークルきつつき

【問い合わせ】

直方市社会福祉協議会
TEL 0949(23)2551



情報場の広場

直方市総合福祉センター
カラオケ無料化

4月1日から、多くの皆様
に楽しんでいただけるよう、
直方市総合福祉センターの
カラオケを無料にすること
といたしました。

■開館日時

月曜日から土曜日
(日曜日・祝日は休館日)
9時から16時30分まで
(受付は16時まで)

■会場

直方市総合福祉センター
(直方市大字山部616・145)

【問い合わせ】

直方市社会福祉協議会
TEL 0949(24)9030



図書室



「くちびるに歌を」

著者 中田 永一

発行所 小学館

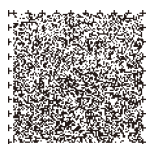
直方市立図書館所蔵

NHK合唱コンクール課題
曲、アンジェラ・アキの「手紙
(拝啓十五の君へ)」。

長崎県五島列島のある中学合
唱部での物語。産休代理顧問の
美人の柏木先生に魅せられ男子
生徒が多数入部。まじめに練習
しない男子部員と女子部員の対
立が激化。一方で柏木先生は、
課題曲にちなんで15年後の自分
に向けて手紙を書くよう宿題を
課した。合唱を始めるまで、ク
ラスでは存在が薄く友達がいな
かった主人公のサトルと自閉症
の兄への思い。最終章で示され
るサトルの同級生たちが見つめ
るやさしさには素直に「ありが
とう」が口をついて出る。

そして彼ら

が書いた手紙
には等身大の
秘密が綴られ
ていた。(広田)



子ども、高齢者、障害者、ボランティアなど誰もが力を合わせる1日へ！

第40回 よこいと運動会を開催します。

よこいと運動会は、障害や年齢に関係なく、誰もが楽しめる運動競技を通して、皆が“よこ”につながることを大切にしたい運動会です。

■ 日時 平成27年6月21日(日) 10時から15時頃

■ 会場 直方市体育館

■ 無料送迎バス

・直方駅発 1便 8時50分 2便 9時20分

・体育館発 15時頃(全日程終了後)

■ 注意

・体育館シューズとシューズ入れをお持ちください。

・昼食が必要な方は各自ご持参ください。

■ 主催

第40回よこいと運動会実行委員会

直方市社会福祉協議会



【問い合わせ】直方市社会福祉協議会
TEL：0949 (23) 2551

つらさや喜びの語り合いが孤立しない介護へ

男性介護者のつどいを開催します。



- ・男性介護経験者の話が聞いて勉強になった。
 - ・介護する側にも笑顔が大事。
 - ・仕事と介護どちらかの選択に悩んだ。
 - ・食事づくりに悪戦苦闘の日々。
 - ・聞くこと、話すことで気持ちが楽になる。
- これは、男性介護(経験)者の言葉です。
あなたも一人で悩まず、ご参加ください。

■ 日時 7月22日(水) 13時30分から

■ 会場 直方市総合福祉センター

■ 内容 意見交換や情報共有など

■ 対象 男性介護者の方
(奥様やご両親を介護している方、もしくはその経験をされた方)

【問い合わせ】直方市社会福祉協議会
TEL：0949 (23) 2551

利用者の喜ぶ顔がやりがいへ！

登録ヘルパーを募集します。

■ 資格

・ヘルパー2級以上

・普通自動車免許

■ 活動時間

7時から21時

※勤務時間は
相談の上

■ 賃金(時給)

生活援助(日中) 1,100円

(早朝夜間) 上記2割増し

身体介護(日中) 1,550円

(早朝夜間) 1,860円

移動支援(ガイドヘルプ)

(身体有り) 1,400円

(身体無し) 1,260円

【問い合わせ】直方市社会福祉協議会
ホームヘルプサービス 香月・毛利
TEL：0949 (23) 2551

ご寄付ありがとうございます。
ごさいます。

平成27年2月11日
から平成27年5月11日
8件合計金額 210,158円
(お名前は承諾された方のみ
掲載、敬称略)

香典返し寄付金

- 中 泉 加 峯 昇
- 下 新 入 岩 崎 淑 朗
- 植 木 (故) 香 月 智 恵 子
- 上 新 入 花 田 文 子
- 溝 堀 山 本 和 世

一般寄付金

福地校区公民館

編集後記

「5階までご苦労かけて
申し訳ありません」「いつ
も本当にありがとうございます」
これは、食べるための収
入を一時的に失い、緊急的
に支援した方からのお礼の
手紙です。お弁当業者の協
力もあって、命をつなぐこ
とができました。

このように様々な困り
ごとを抱えた人たちが、
私たちの身近で生活して
います。

福祉を他人ごとにしな
いまちづくり、改めてその
大切さを感じます。(M)

福地校区公民館
いきいきフェスタ
2015にて寄付

平成27年
3月8日に福
地小学校で開
催した「いき
いきフェスタ
2015」の
売り上げや募
金を本会に寄付していただき
ました。

福地校区公民館関係者のご
厚意に感謝致します。